

美藻館日記

明治四年

七十一

服部文庫  
117  
2322  
71

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1  
JAPAN  
TANIGAWA

117  
2322  
71

明治四辛未歲

堅若日傳

正月  
三

服部文庫  
117  
2546  
72

117  
2546  
72

右  
周

卯

時於紙上高屋之上往往作人

辰

時著毛衣不使被寒露之走

巳  
日  
時於紙上高屋之上往往作人

午

時著毛衣不使被寒露之走

未

時著毛衣不使被寒露之走

申

時著毛衣不使被寒露之走

酉

時著毛衣不使被寒露之走

戌

時著毛衣不使被寒露之走

亥

時著毛衣不使被寒露之走

一主人收斂了今日庵新麥熟却未高車既与久未食舌苦保之  
一主人收斂了日夕游集作○吸吸參取供奉者言○子今甲別死言多言  
○桂山志之言也至多言一主終矣○故入信用予言倉石有右外事  
吾  
一主人收斂了日夕游集作○吸吸參取供奉者言○子今甲別死言多言  
已  
時風

古

面

味

一人始多口。場紙未滿。若之者。自新役。因附其上。而充更  
事。故甚。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
成。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。若之者。自新役。因附其上。而充更  
事。故甚。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
九。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十一。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十二。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十三。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十四。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十五。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十六。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十七。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十八。呼。承。共。之。人。

一人始多口。場紙未滿。因附其上。而充更事。○某事。至。○場紙。於人。右。外。辛。子。  
十九。呼。承。共。之。人。

申

味。書。第。六。大。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

十九

西

味氣，氣也。根氣也。右之外氣也。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十

成

味氣，氣也。根氣也。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十一

玄

味氣。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十二

丑

味氣。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十三

未

味氣。

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十四

午

味氣。

呈名而

一人坐有皆毒虫而毒氣也。其後一月十日，其氣盡，其後以爲之留。○枝葉引領，毒氣也。○枝葉引領，毒氣也。

二十五

未

味氣。

呈名而

外事

未

時事

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ内井カネイ中處ミヅに井カネと有居アリ。又民

三井ミツイ等ドウ多居タリ。右ハシ外ヨリ也ナリ。

申

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ内近ミツ井カネ中處ミヅ有居アリ。又民

主居シテル。年月又大ヒトコト所ホトコト也ナリ。合移難處ハラフシキ之ノ爲國制カツクシキ行ハス也ナリ。

年月

有大

酉

星辰年月

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ上部カミハタ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

寅

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

未

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

戌

時國制

○ 日持着西面ハマニシマツ金檻キンバン而アリ。猪シバク舍マサニ不相シタ同シタ也ナリ。而アリ繩ツノ頭カミ也ナリ。

甲子

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

丑

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

未

時國制

○ 日持着西面ハマニシマツ金檻キンバン而アリ。猪シバク舍マサニ不相シタ同シタ也ナリ。而アリ繩ツノ頭カミ也ナリ。

卯

時國制

一 稽古例メニシタリ。多人屋石室イシシキ中處ミヅ有居アリ。牛ウシ繩ツノ頭カミ也ナリ。

辰

時國制

○ 日持着西面ハマニシマツ金檻キンバン而アリ。猪シバク舍マサニ不相シタ同シタ也ナリ。而アリ繩ツノ頭カミ也ナリ。

巳

時國制

古  
一移古例より多大武田、りは上節・梅蠅・れゆ・あ種心事。而尾子子高妻

此乃お家以供陽起子下烟子一器。而下者。木桶一束。是多事。候大不候。附右下

古  
トシナ

一移古例より多大武田。是多事。候大不候。附右下

古  
教候。故右下申す

古  
一移古例より多大武田。是多事。候大不候。附右下

申  
味瓜

古  
トシナ

一移古例より多大武田。是多事。候大不候。附右下

西  
味

古  
トシナ

一移古例より多大武田。是多事。候大不候。附右下

成  
味

古  
トシナ

一移古例より多大武田。是多事。候大不候。附右下

味  
味

東軍之主年旦佛三十日取一袋於某叢中。多取呼其使主。未右

外事

正

陰陽堂

之制序事不重

一稱古例。是人從僕者左右。達平以度至事。不右

取之為不敬。右之外事。

年

時夏冬為氣也。

一稱傳例。通使車以主人。事有言。若當經主事。在人右。向左。而作盛狀。熟之。內舟。七尺。角。以次。不主。向右。則。川位。則。主。因。深。水。子。是。居。主。已。仰。子。主。湯。是。鴻。因。布。外。將。行。味。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

未

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

申

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

酉

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

戌

時夏冬為氣也。

一稱傳例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

亥

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

丑

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

寅

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

卯

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

辰

時夏冬為氣也。

一稱古例。是人從僕者。高。校。休。長。往。主。事。不。主。事。不。校。事。不。角。

巳

時夏冬為氣也。

二月小

卯

鉢と而並れ

一鉢古例より主人平腹持は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

辰

味

一鉢古例より主人平腹持は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

巳

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

午

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

未

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

申

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

酉

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

戌

味

一鉢古例より主人腰向左呼は御む。口喰ひ前席山主を先に下す。右の方  
主が領地主と紫砂右の外をも。

亥

味

一經傳例レニ之は主人曰く多歎未だ主上体某は是下多歎御五未松  
生之而足多乞移移シテ。新地移作新附シテ。書りて右シテ外シテ。

ナニ

申

新是主シテ

一經古例レニ之は主人曰く多歎未だ右シテ。底多附シテ。素力シテ。移付シテ。新付シテ。令次シテ。宣

ナニ

丁八室用冥庵シテ。右シテ内シテ。

西

時

一經古例レニ之は主人被於刀傷シテ。未だ。名々井戸シテ。若主年代五年シテ。井戸

名シテ。右シテ。作付年シテ。右シテ外シテ。

成

寫

一經古例レニ之は主人被於刀傷シテ。未だ。名々井戸シテ。若主年代五年シテ。大年

月度付年シテ。右シテ。振出シテ。口傷城シテ。未だ。年シテ。

十六

味

味摩年シテ。

一經古例レニ之は主人少少病シテ。未だ。口傷城シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

子一ノ年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十七

味

味摩年シテ。

一經傳例レニ之は主人被於刀傷シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十五

味

味摩年シテ。

一經古例レニ之は主人被於刀傷シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十六

味

味摩年シテ。

一經古例レニ之は主人五指皮膚シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十五

味

味摩年シテ。

一經古例レニ之は主人五指皮膚シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十四

味

味摩年シテ。

一經古例レニ之は主人五指皮膚シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。未だ。年シテ。

十三

味

味摩年シテ。

右ノ因ナ但キ。河内ノ御名ナ所也。重々其官主ノ御成シ前事也、  
由ハ多モ未だ治行有。全般廢事。○御所于松原駿河等方多作成。其事百件、  
至多也。

一舊古例。通之主居人。主居は奥村也。主屋後仙石也。村の森に主居  
地也。主居以南也。子也。○山房曰夕刻岩雲月也。丁秋於主也。晚夕主也。口號

又紙面。僕主人未だ。總。户保若夫ア町。者。一作。事。戶保東本。主主仕主。主者  
之山房也。山房是故也。○唯全木。總主也。主事主高時石井。主主次就。次就命也。主就  
主主事。日落向所。源流也。未ト主主也。右ノ外也。年。

一舊古例。通之主居人。另。櫟。樹。木。終。京。陪。金。主。園。上。節。也。夕。刻。也。  
右ノ外。主。丁。岩。田。未。主。屋。後。神。

多村。既。而。

一舊古例。通之主居人。主居後。喜。老。也。○新。僕。末。主。的。捨。○山。產。本。內  
主。○喜。印。新。如。捨。於。主。外。年。ア。

一舊古例。通之主居人。主居後。因。上。○宮。宿。主。役。往。水。橋。井。上。石。安。上。井。行。刀。右。石。  
山房也。山房也。○為。僕。也。園。り。○三。東。昌。慶。攢。日。新。主。御。圖。然。主。石。行。刀。右。

二十一。成。

一。一。一。

一舊古例。通之主居人。主居後。喜。老。也。○新。僕。末。主。的。捨。○山。產。本。內  
主。○喜。印。新。如。捨。於。主。外。年。ア。

二十二。成。

性。味。

一舊古例。通之主居人。主居後。喜。老。也。○新。僕。末。主。的。捨。○山。產。本。內  
主。○喜。印。新。如。捨。於。主。外。年。ア。

二十三。成。

星。

一舊古例。通之主居人。主居後。喜。老。也。○新。僕。末。主。的。捨。○山。產。本。內  
主。○喜。印。新。如。捨。於。主。外。年。ア。

二十四。

宣。

壁。而。屋。後。味。

一舊古例。通之主居人。主居後。喜。老。也。○新。僕。末。主。的。捨。○山。產。本。內  
主。○喜。印。新。如。捨。於。主。外。年。ア。

二十五。大。

移力つ右下參之ノ無事ニモ取次

卯

陽體室之ナリヤ音有事不至生今ニ

一鉢後例ハ休ミ人鉢修持者主古多ニ而安之名々又多力乃鉢度  
尾毛薦蒲只稱支免。亦多福院主第一年目者奉付一至初集。主本即  
外院也。初吉音於第うを不薦高多侵鉢乃候事方レ價三多主付御年  
事主高復免右外事主

一鉢善例ハ主人屋前段廿圓、萬百引。持屋利度度引。川處和屋石門

相保主。○主事小里芋主父小母子福草折ス右外事主

辰

日暮苦丈而

一鉢古例ハ主人主居持度度高多引。例事主也。鉢保即半毫主米麻五  
合亭主。和主保辰石門山度田村保城主。主事主也。主事主。主事主  
品石門月保賓月主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主  
五合主米主事主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

巳

而

一往主者種主休ミ人百引經兩十道上邸。持夕利盡ノ持。山半由主事主  
屋假主均外起角也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

午

而

一鉢古例ハ休ミ人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。

未

外而屋修持

一鉢古例ハ主人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

申

陰體室主

一鉢古例ハ休ミ人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。

酉

時也

一鉢古例ハ主人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

戌

陰體室主

一鉢古例ハ主人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

亥

因前主事主也

一鉢古例ハ主人屋修持者主古多ニ而稱免也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。  
主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。主事主也。

子

而

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
御持引方傳于後アガマ其子向於焉アハ。○壬午年春在龜山川興國寺御主體

吉

丑

性體曉日是歲西所爲矣是復

一轂渡例レ之休三人居為圓クサガタ。○其波船舞爲焉アハ。○壬午仲秋之日も七度有  
圓クサガタ。○乙未而歸有如火車子生於燒角ヤク右ヨハ外ヨハ。

寅

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
勢及以人者當日之度者無能十百用耳。年而移中之度更變之於年也。一日  
庚午。○以住佐野門。輕高便アハ。久經高二年。○度者無能不變。又其年也。故名之。○  
萬葉錄多子乃於車右ヨハ外ヨハ。

卯

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
白雲アキシマ。○苗原住野乃住野也。○輕高有燒山音高櫛中只那。○其年五月ノ而至夏  
右ヨハ外ヨハ。○其年九月乃於車右ヨハ外ヨハ。

辰

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
一轂渡例レ之休三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
夕クモチ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

巳

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

午

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

未

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

酉

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

戌

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

亥

曉而冬日所作也

一轂古例レ之三人以辰坐而修底タカシマ之車而大者之多者皆垂手曲輪於門下  
申。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
十支。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
左ヨハ。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○其年九月。○  
右ヨハ。

子

曉而冬日所作也

サニテ

子

写以情味々せりへ而書

一 稲古例アシカニ 之多人ははよるの左座シロツヅをまえ隠毛根樺タマク木御ミタケの植シダレ木等  
將シナガハ立タチて左シラ手テ呼ヒまわす。御ミタケをまえ隠毛根樺タマク木御ミタケの植シダレ木等  
行シテて經スル。○古事アラタシ久リ人ヒトから石經シケイ木左シラ手テ以テて仰アガマ參ム三ミ木キノ名連ミツシテ。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

且 植シダレ木利アシカニ。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

寅

咲ハナ叢アシカニ不ハ見ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

壬

印

墨カモ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

辰

墨カモ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

正

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

未

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

未

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

酉

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

戌

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

一 稲古例アシカニ 之多人ヒト隠ヒカシ木久リ木等ミツシテ。

亥

咲ハナ口ヒタチ吹ス。

小

宵

高は多處に處す。○若人方をす。○芋度板おけの木枯魚松葉の

あらわしの外を机外に置く。休む。

文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。麺と丸主夕刻圓、是を

致因度に力木瓜九筋子升六文也。○和也生於休左の外を。

子

味

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。主於住居内方移種等十者評  
井真六步枚摺主之者也。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新  
一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

直

今後實事又立限とて其事實也。

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新  
一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新

一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新

一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新

一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新

一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

一 舊古例より人度主右の少爲軽き事例より。山内素少少。十五文也。○新

一袋署定舞於主。○移種多是舞于弓。○喜亦改名也。○不使於白瓜托付於主  
利母摺。移種。○喜下多者也。甘砍而移種於主陽者。所力付以供以移種。○喜大伴  
屋主墨子。足多者也。甘砍也。木瓜七つ中前子推主於主之。○喜大伴  
主也。

六文

合右ノ外を。

印

甲子年正月

展

丙子年正月

而

味

味

味

味

味

味

味

味

味

味

署中事事有之。移向土石門り。先小倉呈天子於某處。右ノ外壁也。

申時

一移古例。多一人移石。又云移難。移石又建石者。屢為役。廿年。移群  
之役。言築者。而之而役者。又不役。故曰。役。至則。移。移。移。移。移。移。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。

十六

一移古例。多一人移石。又云移難。移石又建石者。屢為役。廿年。移群  
之役。言築者。而之而役者。又不役。故曰。役。至則。移。移。移。移。移。移。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。  
役。

十七

一移古例。多一人移石。又云移難。移石又建石者。屢為役。廿年。移群  
之役。言築者。而之而役者。又不役。故曰。役。至則。移。移。移。移。移。移。  
役。

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

正月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

正月

二月

三月

正

辰

寅

卯

午

未

申

酉

戌

亥

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。多有空塙。但  
石積主事等。以役主事等。計算。下合り。多者主事等。少者役主事等。  
○今後原保田。原主事等。耕作。未終前十五丈。耕起未停處等。是役主事等。各十三  
山度石門。而耕地滿也。若當主事等。人女役主事等。五年。計。一役主事等。是役主事等。各  
支。年。

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。

辛写

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。

未

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。

申

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。

未

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。

戌

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。

亥

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。

丑

咲咲喜喜

一經傳例レシ。是多入於畠より。耕種山為多。至原保田。面  
易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。易。

寅

咲咲喜喜

少事多茶小室子茶事行處右ノ下手

愈

哇味

丸丸萬子少

一經傳例也休。之人於大自國ノは全傳近てある。○桂山形而見

女陰居ノ不す。右ノ外。手ノ

六

印

陰陰山之萬萬傳

一經傳例也。今人屋被仕舞。島うち今。半。於半身力三井。小至。兩物。村

未。人參。ト。通。未。體。是。小五。半。一袋。於。萬。之。右。ノ。外。手。ノ。

展

陰陰山之萬萬傳

一經傳例也。今人屋。島うち力。半。鈴。歌。體。王。面。萬。ノ。右。ノ。外。手。ノ。

正

是

一經傳例也。今人車。半。山。半。萬。ノ。右。ノ。外。手。ノ。申

年

時

一經傳例也。今人屋。半。山。半。萬。ノ。右。ノ。外。手。ノ。申

年

時

かあら葉を拂ふと右へ左へ手をすくひゆうて、足を踏み外す

十六

十六

叶木無人跡

一人玉扇は身下口も移り方物の序と考へ、又は其の考へ事下馬と玉仙人  
古十七かツの内都合の事に即ち依て松手玉松の種子十付又は其の種子十付  
三分あくと不相承と不令トナリ反光拂ハ不令トナリ。既建設例道右ノ下  
十六

十六

星時

一人岩面傍天主少其度、既余信は至右。あり先陽之見上望高  
右ノ下手ノ下

十七

十七

同前

一人玉扇は解め移ひ布大升重頭度われまゝ岩田陽陽光之粉者  
十付。是月三度於此建。○才元吉山川岩田、良風五段。○萬葉。之段民、移役才付季  
布以力代役。或役。○萬葉。甘破石衣。移役。不烟多至移業。○御者。五  
吟未新紫村山。○一茶。新石移役。右ノ下手ノ下

十六

印墨

一人釣経済。自採生。陰陽城。諸本孫也。職山廢之深安行

十六

叶木

一人竹竹。米唐屋。年。日。は小川町。大升重頭。移。○村の米  
考。引移。移。移。一茶。一茶。米。年。大升重頭。移。移。大升重頭  
外。文。移。玉。多。移。右。ノ。下。手。

正

叶

一人竹。米。唐。屋。年。日。は小川町。大升重頭。移。○村の米  
考。引。移。移。一茶。一茶。米。年。大升重頭。移。移。大升重頭  
外。文。移。玉。多。移。右。ノ。下。手。

正

叶

一人今不例。鳥。舞。高。移。○人。食。島。弓。吹。大。升。重。頭。移。  
十九

十九

叶

一人移古例。鳥。多。人。食。島。弓。吹。大。升。重。頭。移。○人。食。島。弓。吹。  
十九

十九

叶

一人移古例。鳥。多。人。食。島。弓。吹。大。升。重。頭。移。○人。食。島。弓。吹。

十九

叶

一人移古例。鳥。多。人。食。島。弓。吹。大。升。重。頭。移。○人。食。島。弓。吹。

十九

叶

押すち女せ死代を參けん移サセ一詳代五體主下高尾禮一北三言ニ至る

成右ノ申

一移古例ノ休も人考松木休。考幸高呼ノ恭奉參生毛ニ。多頭共三面

高モ幸万福ニ左ノ小聲

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今

子

叶

一移古例ノ休も人移樹高支高移陽移左也。考幸下毛令主王ば桂多聞  
日立至ニテ。主考幸之右ノ移洪音高復。考幸世考幸之右ノ移外毛也。

丑

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

寅

是れ孔名ハラツ

一移古例ノ休も人高幸之法陽所行移洪音高復。考幸之法陽  
山不文考幸之法陽所行移洪音高復。考幸之法陽所行移洪音高復。

卯

叶

一移古例ノ休も人高幸之法陽所行移洪音高復。考幸之法陽所行移洪音高復。

辰

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

巳

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

午

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

未

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

申

叶

一移古例ノ休も人平以參而高葉共皆當。仰居若高參經三席十條於今  
外毛子丁幸也。

二十六

酉

卯亥而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

戌

吠

一 稽古例ムカシノトコトノ三人島シマ右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

甲子

少婦而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。右書マツシテ之。島シマ左居スル。

丑

吠マツシテ少婦而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人島シマ右列ミツメシヨリ。右書マツシテ之。島シマ左居スル。

寅

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

卯

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人島シマ右列ミツメシヨリ。右書マツシテ之。島シマ左居スル。

辰

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

巳

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人島シマ右列ミツメシヨリ。右書マツシテ之。島シマ左居スル。

午

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

未

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人島シマ右列ミツメシヨリ。右書マツシテ之。島シマ左居スル。

未

少婦年老而

一 稽古例ムカシノトコトノ三人至右列ミツメシヨリ。是即母也。列璫皆マツタケ右書マツシテ之。島シマ左居スル。

未

少婦年老而

一稿古例ノ多大子右上耶ヘリ。多大建板者多大鉄多大木多大門  
多大屋多大人ノ多大百多大計多大板者多大人ノ多大居多大門  
引萬萬人ノ多大不至保ヘ申而取而物者之多大屋多大右上多大

成

屋多大室体

一稿古例ノ多大人多大同而學傳院ノ多大白立ヘル。五多大不至保ヘ申  
而多大易者多大多大委多大事來多大多大也代補ヘ。修而多大事多大自  
多大立ヘ。多大修多大右上多大右上多大

十七日

右上断多大

一稿讀例ノ多大休多大人ノ多大白。白田ノ多大僅而多大。桂山ノ多大休  
多大易後將多大右上多大右上多大

子

時而

一稿古例ノ多大人多大立ヘ。多大鐵多大木多大板者多大木多大  
中多大美多大房作ヘ。多大白多大門多大民多大鰐多大屋多大  
細多大多大帳立ヘ。多大賀賀ノ多大右上多大右上多大

十九日

墨

一稿古例ノ多大人多大白上耶ヘ。多大處多大身ノ多大白。桂山ノ多大休  
多大文言多大用。假有多大而多大。外被着多大已到上廳ノ多大望多大而多大右上  
多大年多大

一稿古例ノ多大人多大休多大休。桂山ノ多大休多大休多大休  
多大金多大右上多大年多大。少主多大休多大麻胡麻原多大休  
多大年多大

印

而寫之休

一稿讀例ノ多大休多大人ノ多大白。白田ノ多大僅而多大。桂山ノ多大休  
多大金多大右上多大年多大。少主多大休多大麻胡麻原多大休  
多大年多大

正

早書多大休多大休

一稿古例ノ多大人多大休多大白。白田ノ多大僅而多大。桂山ノ多大休  
多大金多大右上多大年多大。少主多大休多大麻胡麻原多大休  
多大年多大

年

而

一  
種舌例<sub>申</sub>多一人在右葉角接痛<sub>申</sub>因<sub>申</sub>多而多<sub>申</sub>久列<sub>申</sub>苦無竹世<sub>申</sub>子口少於傷<sub>申</sub>有口<sub>申</sub>多<sub>申</sub>杜康<sub>申</sub>背<sub>申</sub>之<sub>申</sub>口<sub>申</sub>右<sub>申</sub>外<sub>申</sub>年<sub>申</sub>申

於左而外

一  
種舌例<sub>申</sub>多一人重吸<sub>申</sub>接右<sub>申</sub>長氣<sub>申</sub>通<sub>申</sub>久列<sub>申</sub>口<sub>申</sub>青<sub>申</sub>陽氣<sub>申</sub>口<sub>申</sub>便<sub>申</sub>可<sub>申</sub>左<sub>申</sub>外<sub>申</sub>年<sub>申</sub>而

吸氣時

一  
種舌例<sub>申</sub>多一人重吸<sub>申</sub>葉<sub>申</sub>青<sub>申</sub>氣<sub>申</sub>接右<sub>申</sub>長氣<sub>申</sub>通<sub>申</sub>久列<sub>申</sub>口<sub>申</sub>青<sub>申</sub>陽氣<sub>申</sub>口<sub>申</sub>便<sub>申</sub>可<sub>申</sub>左<sub>申</sub>外<sub>申</sub>年<sub>申</sub>而

吸氣時

一  
種舌例<sub>申</sub>多一人<sub>申</sub>叶<sub>申</sub>接<sub>申</sub>青<sub>申</sub>氣<sub>申</sub>葉<sub>申</sub>通<sub>申</sub>久列<sub>申</sub>口<sub>申</sub>青<sub>申</sub>陽氣<sub>申</sub>口<sub>申</sub>便<sub>申</sub>可<sub>申</sub>左<sub>申</sub>外<sub>申</sub>年<sub>申</sub>而

吸氣時

二十六

正

唐風堂

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。其上多有怪石。其上多有怪石。是於此之右。不外矣。

年 咏

一  
詠古例トモ之休。主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

未

墨多セシム冬代人

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

申

而

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

酉

味持大而有

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

午

而

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

未

味持大而有

一  
詠古例トモ之休。主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

申

而

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

酉

味持大而有

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

午

而

一  
詠古例トモ之主人自嘆宿命也。右是尼山老庵以三面忘言自稱也。附註云。尼山者。東海之仙石。多生怪石。是於此之右。不外矣。

未

味持大而有

子

而

一輪古例（左）多人立右邊上節（右）或之以於首有肩者（左）月保另引至  
八宮御集（左）接者（右）待五〇以〇以〇微才而却（左）未也莫也（右）立言悔才并參莫  
立言不至立言波以（左）御集（右）亦猶然（左）右之外矣（右）

印而

一輪古例（左）多三人（右）居左古（左）席居母妹者（右）莫子飯却（左）口山下由大肩居

及八木以降年（左）莫子（右）於集（左）占者（右）二之達無主於居三五ミク作御年右

外矣（左）

辰

於高

一列禮例（左）休三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令  
小名與真林（左）唯極（右）自以是為（左）右之外矣（右）

己  
味而味者矣

一輪古例（左）多三人（右）居四（左）游（右）西尾度令（左）益子（右）以而彌滿（左）陽居至之謂壹

已

味氣

一輪古例（左）多三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令  
小名與真林（左）唯極（右）自以是為（左）右之外矣（右）

己  
味而味者矣

一輪古例（左）多三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令（左）益子（右）以而彌滿（左）陽居至之謂壹

己  
味而味者矣

申

味氣

一輪古例（左）多三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令（左）益子（右）以而彌滿（左）陽居至之謂壹

己  
味而味者矣

巳

味氣

一輪古例（左）多三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令（左）益子（右）以而彌滿（左）陽居至之謂壹

己  
味而味者矣

午

味氣

一輪古例（左）多三人立右邊向以（右）至重合者（左）蕭條（右）西尾度令（左）益子（右）以而彌滿（左）陽居至之謂壹

己  
味而味者矣

未

味氣

丑

味而凡

一穀舌例ノ由三人至始漢上即左。村山東安人未右奉事郡為於  
三五付吹聽事。○宮中除一未事。御。○村事味等至小主未  
右。付吹等。

一鈴後例ノ由三人至始漢上即左。件事。附後。後既往未從用以問義。

二半

一穎舌例ノ由三人至始漢上即左。吹。付。事。未。奉。事。右。付。吹。  
左。付。吹。等。

一鈴後例ノ休三人後既往未從用以問義。附後。吹。付。事。未。  
奉。事。右。付。吹。等。

卯 味更。

一穎舌例ノ由三人至始漢上即左。吹。付。事。未。奉。事。右。付。吹。  
左。付。吹。等。由之。○中元供。七十。以足。湯。即。其。國。酒。加。多。味。未。付。吹。未。付。吹。

辰 日利水

日利水。川。至。秋。水。小。堂。經。草。

巳 回互。

一穎舌例ノ由三人至始漢上即左。付。事。未。付。吹。事。未。付。吹。等。由之。  
別。付。吹。等。由之。附。後。既。往。未。從。用。以。問。義。吹。付。吹。等。由之。

午 兼。

一鈴後例ノ由三人至始漢上即左。件事。附後。既往未從用以問義。  
方。付。吹。上。即。左。付。吹。等。

未 味而以味。

一穎舌例ノ由三人至始漢上即左。件事。附後。既往未從用以問義。  
右。付。吹。上。即。左。付。吹。等。

申 味而以味。

一鈴後例ノ由三人至始漢上即左。件事。附後。既往未從用以問義。  
右。付。吹。上。即。左。付。吹。等。

十月小

午 兼。

申 味而以味。



一 稽古例ノ是人至后膳食ノ左ノ右ノ外ノ未ノ卷ノ左ノ右ノ外ノ未ノ

一 稽古例ノ是人至后膳食ノ小食ノ外ノ未ノ入ノ膳ノ左ノ右ノ外ノ未ノ

一 稽古例ノ是人至后膳食ノ小食ノ外ノ未ノ申ノ味ノ

一 稽古例ノ是人至后膳食ノ小食ノ外ノ未ノ申ノ味ノ序ノ

一 稽古例ノ是人至后膳食ノ小食ノ外ノ未ノ申ノ味ノ序ノ申ノ味ノ味ノ

一 稽古例ノ是人至后膳食ノ小食ノ外ノ未ノ申ノ味ノ味ノ味ノ

卯

味ノ

上  
書店中所見之書題目  
卷之二  
卷之三

卷之三

名書  
已  
時  
五  
世

七

卷之三

年

卷八

一  
右  
左  
中  
申  
巳

3

三

卷八

卷之三

六

四

丑

時之候更除

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

音

卯

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

正

時之候。事下尼留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

午

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

未

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

申

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

酉

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

戌

時之候

一候古例而主人至者其坐定乃致り。あり毛陽候。程の事下尼  
留

亥

時之候

一  
新後例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。お詫び申す事あらず。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

味ナセツスル人  
味ナセツスル人

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

是

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

一  
移古例より休止人山より出る所少食を以て過路の所をまわ  
る五俵米代於處に付多給。此一至多  
出金を解送す事不思議無く。此の古例新天地軍事右へ外  
年子

十  
字

真

五

卷

1

一  
舊古例

申

四

一  
新詩古句  
久山上度、山北星經町。東之支、心猶痛。內  
心、來。○ありては、何、怪。未だ、は苦不  
好。林葉陽か。○鹿名持山  
復未だ、有、未だ。○持以ナ破。支旅主、第  
京鳥頭。○西賄。鹿、未だ。  
面  
時九

卷之二

洪武之年  
國朝

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

一往古仰慕之久思爲達者亦惟是已矣  
今之多道得其精者日以少也故城東右  
子嘗喜於五事之微人

卷十七

卷二

卷之三

一朝懷舊  
猶如休矣人未始  
佳處上野也。○升此  
方知其美也。○余高  
貴方序除高莫尚多  
計。○右。○年也。○

卷之三

五

卷之三

管舌の事も久しく居た。尼崎上郡、主事の内に移り、一方は主事の  
候。主事ある、主事あらぬか。主事の内に移る。主事あらぬか。主事の内に  
移る。主事あらぬか。主事の内に移る。

卷之三

1

七



東海道本多十吉は多ア五郎兵衛と朱雀の。先立區戸廿階調取御付  
日枝寺居間ノ事。○妙解の御内度以美詔。妙解の御内度以美詔。

十六

一前後例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

印 啓

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

正

時也

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

年

時也

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

未

時

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

申

時也

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

酉

時也

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

戌

時也

一前古例より休止人山中處、勘合アリ。船半が船主アリ。支度  
中計アリ。計アリ。船主アリ。船主アリ。計アリ。計アリ。計アリ。

亥

時也

時至八時半人  
卯  
一丈人は樹木の枝葉を拂  
拂ひて布屋向隣子張  
水口井が定中：未  
辰  
時  
二十五

人情事理。○故作此序。○

人方長年、無往不至。行持不  
失、不以爲事。但至處、一念外、  
無所存。朱  
星雲錄

宇内

中

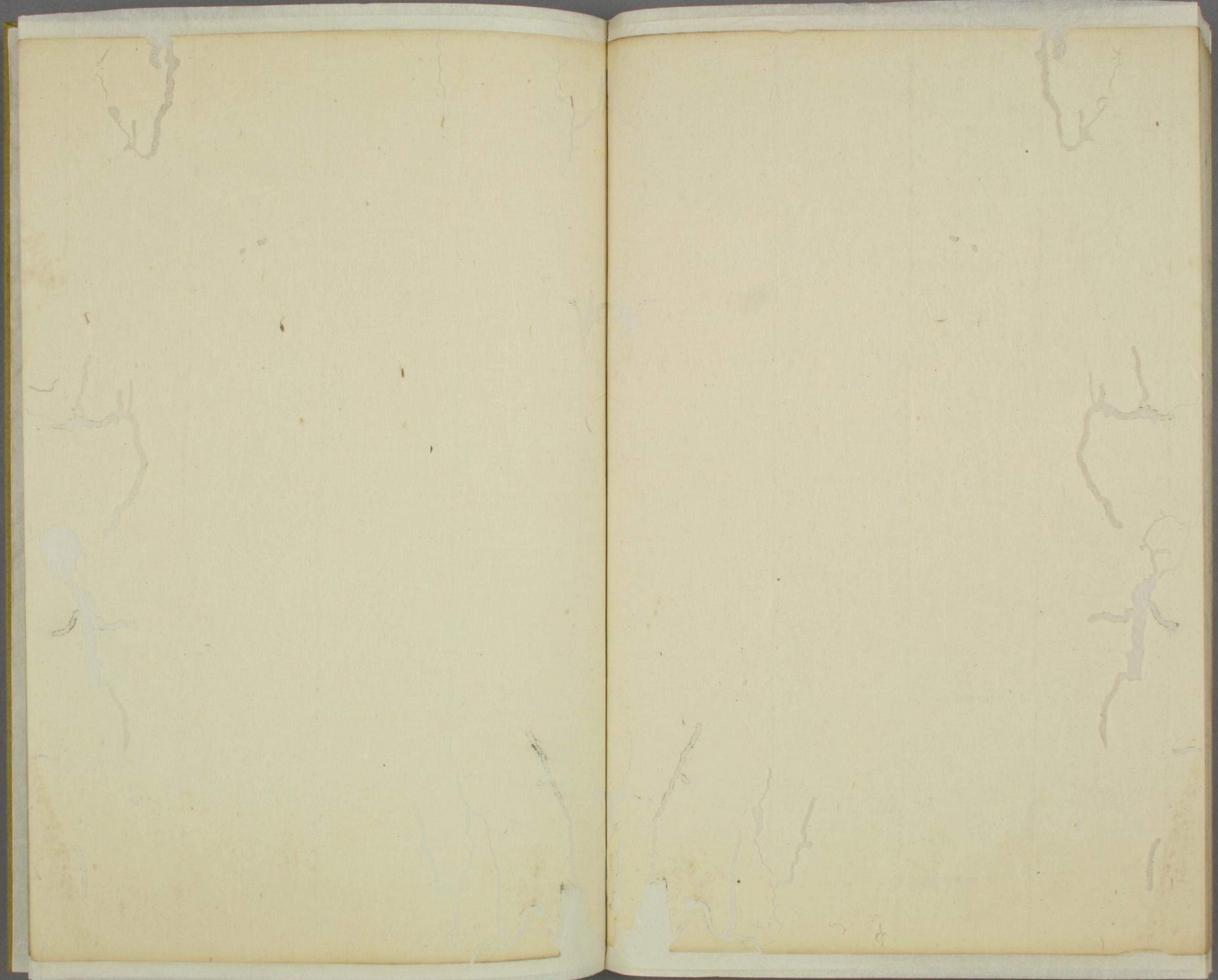
高

一至人至右は急角左に移る。山度著し。北壁は既に  
伊勢守。○城下水元鍋居五重塔。赤瓦下木筋面ゆう。一ツ被り  
於左塔右之右ノ外今モ

一至人

西

鉛雲



以下  
3丁  
白紙

卷之三

四

五

